

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 元年 6 月 14 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02964

研究課題名(和文) 小学校英語教育における指導者の英語使用支援のためのTeacher Talk開発

研究課題名(英文) Teacher Talk Techniques for Elementary School English Classes

研究代表者

松宮 奈賀子 (Matsumiya, Nagako)

広島大学・教育学研究科・准教授

研究者番号：70342326

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：小学校外国語において活用できるTeacher Talkテクニックを明らかにし、実際の教員養成・教員研修での活用方法を提案することを目的として本研究を実施し、以下の成果を得た。

(1) All Englishで実施された授業を分析し、10の工夫をTeacher Talkテクニックとしてリスト化した。(2) 教員志望学生のTeacher Talkの気づきの実態を調査し、目に見えにくい言語面の支援には気づきにくいこと、小学校英語授業への具体的イメージがある学生ほど指導の効果が高いことを明らかにした。(3) 教員志望学生の実際の英語での語りを録画し、テクニック理解と実際の発話の実態を検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学級担任が指導の中心を担う小学校の英語教育においては、指導者自身の英語力への不安が大きな課題となっている。一方、英語の知識に限られる児童に向けて「伝わるように語りかける」には単に英語が流暢であるだけでも十分ではなく、児童が分かるような支援を講じた語り方が求められる。しかし、全教科を指導する小学校教員の養成課程で英語の指導について学べる時間は限られている。限られた時間に効果的に学ぶために、指導者が英語で語る際に講じるべき工夫のうち、特に明示的かつ丁寧な指導が必要な事項を明らかにすることを試みた本研究は、教員養成課程及び教員研修において生かされる知見を得たことにおいて社会的意義があるものと考えられる。

研究成果の概要(英文)： The purpose of this study was to investigate the teacher talk techniques can be used in elementary school English classes and propose a model of instruction for pre-service teacher training and also for the in-service training, too. The following are the outcomes of this study.

(1) Analyzed an elementary school English lesson taught only in English and created a list of Teacher Talk techniques. (2) Investigated on what techniques were easy for pre-service teachers to point out and what were not to find out the techniques which need special focus in lectures. (3) Video recorded the pre-service teachers' speech and researched what techniques were used and what were hard to use and need additional instruction and practice to be able to use them.

研究分野：英語教育

キーワード：Teacher Talk 教員養成

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

平成 23 年度に小学校に外国語活動が導入されてから 5 年が経過した(平成 28 年の研究開始当時)が、指導に自信が持てず、不安を感じている教員の存在も指摘されている。ベネッセ教育総合研究所(2011)の調査では、2,000 人を超える回答者(小学校教員)の約 68%が外国語活動の指導に「自信が無い」と回答し、また多くの教員が「指導する教員の英語力」を課題として挙げていた。水田他(2010)でも「教員が不安を感じる理由の一つとして、英語に関する知識や英語の使用に対する自信のなさがあると考えられる」と指摘され、指導者の英語力への不安の解消は喫緊の課題といえる。

しかしながら「英語力」といっても多様な知識やスキルがあり、漠然と「英語力向上」を現職教員や教員養成課程の学生に求めるだけでは十分な成果は得られないと考える。音声中心の小学校の英語指導において、指導者に求められる英語使用場面の主たるものは「児童に向けた発話場面」と考えられるが、流暢に話すことが出来さえすればよいかと言えば、それもまた十分ではないと考えられる。「英語教育の在り方に関する有識者会議」の提言において中高で指導者が英語で授業を行う際には「生徒の理解の程度に応じた英語を用いるよう十分配慮すること」と示されているが、さらに英語の力が限られる小学校においては、「英語をほとんど知らない状態にある児童が理解できるように話す力」が必要になると思われる。すなわち、英語力と指導の工夫を統合して語ることができる力の育成が求められる。

### 2. 研究の目的

本研究は以下の 3 点を明らかにすることを通して、最終的には教員養成及び教員研修における Teacher Talk の学びに生かされる知見を得ることを目的とする。具体的に取り組み 3 つの課題は次のとおりである。

- (1) Teacher Talk テクニックリストの開発
- (2) 教員養成・教員研修において特に重視すべきポイントの明確化
- (3) Teacher Talk テクニックリストを活用した指導の効果検証

### 3. 研究の方法

#### (1) Teacher Talk テクニックリストの開発

リストの作成に当たっては、All English で行われた小学校 6 年生の授業の分析を行った。まず「児童が内容を理解するために講じられている工夫」をすべて書き出し、指導者の行為をカテゴリー化していった。

#### (2) 教員養成・教員研修において特に重視すべきポイントの明確化

小学校教員養成においては、外国語(英語)コア・カリキュラムとして「外国語に関する専門的事項(1 単位)」の中で授業実践に必要な英語力の育成が必要であることが示されている。まずは喫緊の課題である教員養成において、どのような「英語での語りかけ」を指導すればよいのかを検討し、その成果を教員研修に生かすことを考えた。よって、本項目については、教員養成課程の学生を対象に、課題を検討し、特に重点的に指導すべき事項を検討した。

検討にあたっては、以下の 3 つの調査を実施した。

小学校教員を目指す学部生に授業映像を視聴させ、どのような工夫に気付くことができるのかを検討し、気づきにくい項目を重点的に指導が必要な項目として明らかにすることを試みた。

小学校教員を目指す大学院生に Teacher Talk テクニックリストを用いた指導の前後に 2 本ずつの授業映像を視聴させ、指導の前後で気づきの質や量にどのような変容があるのかを調査した。それにより、指導後であっても理解が難しい項目を明らかにすることを試みた。

外国語(英語)コア・カリキュラムの「外国語に関する専門的事項(1 単位)」に相当する授業科目の中において Teacher Talk テクニックについて指導を受けた学部生を対象に、理解が困難であった項目を質問紙により調査した。それによって直接的に理解が難しいと学生が感じる項目を明らかにすることを試みた。

#### (3) Teacher Talk テクニックリストを活用した指導の効果検証

指導の効果検証に当たっては、次の 2 つの調査を実施した。

指導の効果検証のため、外国語(英語)コア・カリキュラムの「外国語に関する専門的事項(1 単位)」に相当する授業科目において Teacher Talk テクニックについての指導を受けた学生に英語による短い語り(Small Talk)を実施させ、その映像を録画した。それにより、学生の課題意識と実際の語りに見られる特徴や課題を検討することを試みた。

また、授業科目においては、コア・カリキュラムに示された他の項目の指導も行わなくてはならないため、Teacher Talk に関する学習に割ける時間は非常に限られたものとなる。そこで、上記授業科目履修者のうち 11 名に課外で 90 分×8 回の少人数学習に取り組んでもらい、授業科目での学びとの比較を通して、課外で行ったどの学習活動が Teacher Talk テクニックの理解に役立ったか、授業においても取り上げるべき活動はあったか、といったことを検討し、授業の改善に資する情報を得ることを試みた。

#### 4. 研究成果

##### (1) Teacher Talk テクニックリストの開発

授業映像の分析を通して指導者が英語で語る際に「児童が内容を理解するために講じられている工夫」を書き出し、分類した。分類カテゴリー作成に当たっては、渡邊(2003)が提唱する MERRIER Approach や稲岡・清水(2003)が挙げた指導者の発話特徴、Chaudron(1988)による日母語話者に向けた発話の調整の特徴等の先行研究を参考にした。そして、授業において観察されたすべての工夫を網羅する 10 のカテゴリーを抽出し、Teacher Talk テクニックリストとした。なお、リスト検討段階では Voice のカテゴリーは発話速度や声の大きさ、高さなど細分化した項目に分けていたが、いずれも重要な箇所を強調し、特に耳を傾けるべき語や表現に着目させるといった共通の目的で用いられていると考え、1つのカテゴリーに集約した。

表 1 Teacher Talk テクニックリスト

1	Adjustment	学習者が理解できる語彙や表現の選択, レベル調整
2	Example	具体例を用いて理解を促す, 答え方のモデルを示すこと
3	Expansion	児童の発話の誤りを修正したり, 日本語によるつぶやきを正しい英語にしたりして発話を広げること
4	Interaction	児童とやり取りをする中で意味理解に到達させること
5	L1 use	母語の使用
6	Mime / Model	身振り手振りや表情の活用
7	Redundancy	一つの意味を伝えるために, 複数の表現を用いること
8	Repetition	文章あるいは文章の一部を繰り返すこと
9	Visual	身振り手振り以外の視覚資料の活用
10	Voice	声の高低・速度・大きさの活用

##### (2) 教員養成・教員研修において特に重視すべきポイントの明確化

調査 1 (2015 年 12 月 ~ 2016 年 1 月実施)

まず、私立大学 1 大学と国立大学 1 大学に所属する教員を目指す 28 名の学部生を対象に、All English で実施された小学校英語科の授業映像を視聴させ、指導者が行っている「児童が分かるための工夫」をすべて書き出す課題を実施した。そこでどのような Teacher Talk テクニックに着目し、工夫として抽出することができるのかを検討することにより、気づきが生まれやすい事項と気づきが生まれにくい項目で指導の軽重をつけることを提案した。

具体的な結果としては表 2 に示すとおり、学生が指摘した気づきの大半が Mime/Model、すなわちジェスチャーなどの目に見える動きであることが明らかになった。また、3 割弱の意見は「分類外」という結果であった。これは指導者の英語による発話を児童が理解できるように支援するためのテクニック以外の事項を記述した意見である。この結果から、学生は目に見えづらい「言語面での支援」には気づくことが難しく、また「絵カードを素早くめくって子どもたちの関心を高めていた」などの指導上の工夫と「語り」の工夫の区別がつきにくい様子も見受けられた。

表 2 学生による自発的な気づき

カテゴリー	意見数	%
Adjustment	6	1.5
Example	14	3.4
Expansion	14	3.4
Interaction	6	1.5
L1 use	11	2.7
Mime / Model	165	40.4
Redundancy	8	2.0
Repetition	19	4.7
Visual	16	3.9
Voice	36	8.8
分類外	113	27.7
合計	408	100.0

調査 2 (2017 年 12 月 ~ 2018 年 1 月実施)

指導の前後での気づきの変容を調査するため、6 名の大学院生に事前 2 本、事後 2 本、合計 4 本の授業映像を視聴させ、気づきの変化を調査した。指導は表 1 に示した Teacher Talk テクニックリストを用いて、各テクニックの具体を約 1 時間かけて説明した。主な結果として、指導前段階では調査の結果と同様に、すべての学生から指摘があったのは Mime/Model、すなわちジェスチャーなどの目に見える動きであった。また、同じセリフを繰り返す Repetition も比較的多くの学生から指摘があった。しかしながら、それ以外の項目についての気づきはほぼない状況であった。指導後には気づきの数はいずれの調査協力者においても増加し、また事前

には気づきにくいかった言い換え (Redundancy) などのテクニックにも目が向くようになっていた。また、学生ごとに結果を検討したところ、大学院で専門的に学んでいる教科が英語である学生 2 名において気づきの伸びが大きいことが明らかになった。これら 2 名も指導前の段階ではほとんど気づきを挙げる事ができていなかったが、事後には他の学生と比べて多くの気づきを得ることができていた。可能性として、小学校での英語授業の観察経験の差などから、指導実践の具体的なイメージが持てている方が、Teacher Talk テクニックの指導の理解も深くなる事が考えられる。よって、教員養成課程での指導においては、Teacher Talk について独立してテクニックを指導するのではなく、授業観察や授業立案、模擬授業などと連携させて学習指導を行う方が、より具体的で深い理解につながる可能性が示唆された。

#### 調査 3 (2018 年 12 月～2019 年 2 月実施)

外国語 (英語) コア・カリキュラムの「外国語に関する専門的事項 (1 単位)」に相当する授業科目の中において Teacher Talk テクニックについて指導を受けた学部生を対象に、理解が困難であった項目を質問紙により調査した。その結果、やはり言語面での支援に対する理解度が低く、また児童の反応をもとに対応にするなど、児童が目の前にいないためにイメージしづらい項目についても学生の自己評価が低い結果であった (表 3 の網掛け項目)。この結果から、特に言いかえや、児童に分かりやすい語彙や表現の選択など、言語面での支援についての指導に重点を置くことが必要と示唆された。

表 3 学生による理解度自己評価

adjustment	4.30
Example	4.62
Expansion	4.31
Interaction	3.96
L1 Use	4.81
Model /Mime	4.86
Redundancy	4.41
Repetition	4.78
Reward	4.68
Visual	4.78
Voice	4.68

#### (3) Teacher Talk テクニックリストを活用した指導の効果検証

学生の映像分析による指導の効果検証は、映像を収集した授業科目の開講時期が第 4 ターム (年度の最終タームで 12 月～2 月) の実施であったことから、本研究の期間内に分析を完了させることができなかった。研究期間は終了したが、引き続き、分析を続け、成果を公表したい。

## 5. 主な発表論文等

### [雑誌論文] (計 2 件)

本田勝久, 建内高昭, 松宮奈賀子, 山本長紀, 星加真実, 染谷藤重, 田所貴広 (2019) 「小学校英語教員養成の高度化に関するカリキュラム策定 - 東アジア諸国における教科専門科目の位置づけ - 」『JES Journal』 Vol.19, pp212-227., 査読無し

松宮奈賀子, 幡井理恵 (2017) 「小学校英語授業における Teacher Talk の工夫に対する大学生の気付きの検討」『日本児童英語教育学会 (JASTEC) 研究紀要』 36 巻, pp.89-pp.105, 査読あり

### [学会発表] (計 8 件)

本田勝久, 建内高昭, 松宮奈賀子, 山本長紀, 星加真実, 染谷藤重, 田所貴広 (2018) 「小学校英語教員養成の高度化に関するカリキュラム策定 - 東アジア諸国における教科専門科目の位置づけ - 」小学校英語教育学会

松宮奈賀子, 幡井理恵 (2018) 「小学校英語授業における Teacher Talk の工夫 明示的指導の効果に関する大学院生を対象としたパイロット調査」小学校英語教育学会

川合紀宗, 小林宏明, 原由紀, 宮本昌子, 松宮奈賀子 (2017) Types of Reasonable Accommodations Classroom Teachers to Provide for Middle-High School Students who Stutter. American Speech-Language-Hearing Association

川合紀宗, 林田真志, 松宮奈賀子 (2017) Clinical Methods for Young Children Who Stutter: A Survey Study. American Speech-Language-Hearing Association

松宮奈賀子 (2017) 「小学校外国語 (英語) の指導に当たる教員に求められる英語力の具体を探る」日本教科教育学会

本田勝久, 建内高昭, 松宮奈賀子, 山本長紀, 星加真実, 染谷藤重, 田所貴広 (2017) 「小

学校英語教員養成の高度化に関するカリキュラム策定にむけて - 台湾における教科専門  
科目の位置づけ - 」日本児童英語教育学会第 37 回秋季大会  
本田勝久, 建内高昭, 松宮奈賀子(2017)「Teacher Training Standards for Primary English  
Education in Japan: Practical Seminar for the Teaching Profession」The Third Global  
Teacher Education Summit  
松宮奈賀子, 幡井理恵(2017)「大学生による小学校英語授業の分析: Teach English in  
English を可能にする指導者の工夫への気付きの検討」初等教育カリキュラム学会

〔図書〕(計 2 件)

樋口忠彦, 泉 恵美子, 加賀田哲也, 加藤拓由, 上原明子, 衣笠知子, 児玉一宏, 多田玲  
子, 田中真紀子, 田邊義隆, 田縁真弓, 中西浩一, 箱崎雄子, 松宮奈賀子, 山野有紀(2019)  
『小学校英語内容論入門』研究社, 227 ページ  
鈴木 由美子, 蘆田智絵, 野中陽一朗, 岡村美由規, 三島知剛, 久保研二, 椋木香子, 高  
橋均, 亀岡圭太, 江玉睦美, 林田真志, 米沢崇, 松宮奈賀子, 森川敦子, 宮里智恵(2018)  
『教師教育講座第 6 巻 教育課程論 改訂版』協同出版, 271 ページ

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年:  
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年:  
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名:

所属研究機関名:

部局名:

職名:

研究者番号(8桁):

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名: 幡井 理恵

ローマ字氏名: HATAI Rie

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。